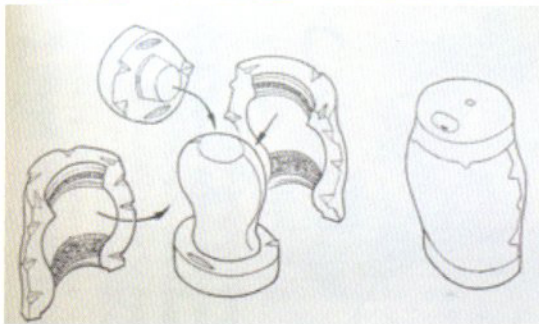


青銅器の作り方

青銅器とは…人類の物質文化が発展する中で鑄造された銅の器物である。中国は、五千年前の新石器時代馬家窟文化の頃、すでに赤銅器が発見された。青銅器においては、夏代の中原地域の河南省偃師（えんし）市の二里头（にりとう）遺跡にすでに最先端の青銅器鑄造技術があった。夏の時代に青銅器が鑄造されたと、『春秋左氏傳』宣公三年に「昔夏之方有徳也、遠方図物、貢金九牧、鑄鼎象物」と記してある。1972年、河南省偃師二里頭の殷代宮殿の跡で、銅で作られた鑿（のみ）、錐（きり）、釣り針、矢じり、戈（ほこ）、戚（まさかり）などが発見された後、すぐに青銅の温酒器の爵（しゃく）などの器物が見つかった。青銅器は中華文明の重要な標識であり礼器、容器、楽器、兵器などが作られ王や部族の首領などが権力を示すものとなる。青銅器の内側に銘文が刻まれ、当時の様子を知ることができる。青銅器に刻まれた銘文の文字を金文という。

【青銅器の作り方】 中国古代の作り方 ——粘土で作った鑄型を組み合わせて作る——



青銅容器鑄造の型の組み合わせ方
モデルは前13～12世紀の酒杯

林巳奈夫『中国古代の生活史』より

- ① 同じ形の原型を粘土で作る。
- ② 紋様のあらましも作っておく。
- ③ 外から柔らかい粘土を押し付ける。
- ④ 分割して外型を外す。
- ⑤ 合わせ目に三角の凹凸を作る。
- ⑥ 紋様の細部は外したまま外形の粘土に彫り込む。
- ⑦ 同図左図の中央の中型の主要部は、始めに作った原型を、容器の厚さだけ削ったものをそれに当てる。
- ⑧ 図はパーツを組み合わせて出来上がったところ。
- ⑨ 鑄型はすべて素焼きしておく。
- ⑩ 溶けた青銅を左寄りの口から注ぐ。



【ワークショップ 文鎮の鑄造の仕方】 錫を使って鑄造します。青銅は錫で作った型を使用し外注します。



① 型を木枠の中に入れる



② 鑄物砂をかぶせる



③ 上の木枠を載せる



④ 湯道棒を差し込む



⑤ 湯道を作った後型を取る



⑥ 鉄瓶で錫を溶かす



⑦ 湯を流す



⑧ 取り出す



⑨ 磨いて完成